



五
七
九

安方忠義傳
前編四冊

卷之二

13
1305
2



仲夏の時ちゅうげのときとまらして諸人しよじん禪定ぜんぢやうする夏なつなり。山の姿やまのすがた仏の形ぶつのかたち似にゆるゆゑふ。
膝ひざを二の越こゑといひ。腰腹こしを二の越こゑといひ。肩かたを二の越こゑといひ。頭あたまを四の越こゑと
いひ。頂上しやうじやう弘面くわんめんと五の越こゑといひ。市の谷いちのやへ行ゆく。小鍾こしゆん大鍾おほしゆんとて。さうり小こなり
つゞいてのり所ところあり。險阻けんそとひやうべ。扱さ鷲じゆ沼ぬま太郎たうらうハ皮かわをせむ。錫杖しやくじやう
とほき鉦かねとまじして險道けんぢやうとのり。山中さんちゆうの靈地れいぢとまねく。順拜じゆんぱい。追分おひわか
より地獄ぢやく谷やのり。山路さんろふらふ。街まちの敷しきおろく。悪趣あくしゆの險路けんろふて。
八大地獄はつたいぢやくふおろく。十六の別所べつしよありて。一百二十六地獄いちひやくにじふぢやくあり。劍つるぎの山やまのり。
岩い石いしをぶらちて。劍つるぎをうゑまゝとるがごとく。血ちの池いけといひ。水みづの色いろ赤あかく
朱しゆとこまて流ながせらる。如ごとく。則すなは友人ゆうじんもぶらふ。一見いつけん。面前まへなる地獄ぢやくの形勢かたち
らんと見てもおそれぬ。人のろろへ鬼おによりもなほおそら。うらへ。と
歎息たんそく。此山こゝふて頭あたまハ再またまゝとく。亡者まうじやおもあつて。若わかき人ひとぶら

のふとりやとて。不思議ふしぎの塔たかといひ。五輪ごりんの傍そば。皮かわをおろして鉦かね打うちまじ。
一心いつしん不乱ふらん念ねん仏ぶつとまて居かゆる折をり。背後せうごの方かたのいと。かまらるる。色いろありて。
往事わうじ渺茫みやうまうとして。總すべて夢ゆめ似にたり。奮遊きんゆう零落れいらくして。半泉はんせん小飲せうきん。閻浮えんぶの
人の形かたち。まじり。叫こゑのあり。たもやと。顧かへりと。岩い石いしをぶらちて。わの
うら所ところ。頭あたま蓬ほうを乱みだす。色いろ青あおざり。瘦やせかろく。男おとこ。衣ころも着きて。鶴つるの羽はねに
腰こし蓑かさをたれ。不ふた。杖つゑふらぐり。かげらひのぶ。たぐ。居かゆる。則すなは友怪ゆうかいと
これハ何なに人ひとふて。おろ。中なかつ人と尋たづねむ。さうり。や。即すなは別支べつしの。涉あへん見けんたれ
ゆる。其そのハ善知安方ぜんぢやんあんぱうふて。ゆ。た。へて。ひ。き。對面たいめんなる。といひ。て。さ。め。と
あ。く。則すなは友ゆうより。え。れ。び。つ。つ。お。と。ろ。へ。て。古いにしへの。形かたちも。お。び。へ。ね。ど。ま。さ。う。れ
其人そのひとあれハ。大おほ小こ撃うた。おん。身み妹い錦にしん本ほんさ。り。ふ。陸奥むつノ。下しもり。あり。と。え。
風の便べんふ。つ。つ。が。其その頃ころハ。合戦あひせんふ。い。と。ま。ま。く。故君こくん亡なむ。ひ。後のちハ。か。く。一いつ所ところ



陸奥の山

田



陸奥の山
 修行者あり
 越中立山の
 地獄谷あり
 善知母方の
 出雲小倉の
 ことわりて
 陸奥の山
 ありむ

陸奥の山

とりがまきて苦む俸。足る不悲しさいやまうね。剣羽の身を斬るへ鴛鴦
弑せし外やん。逃んとされど立得ぬ時ねけ鳥の報るうう安方が
身をたたくめい。鷹お追う雉子より。遥か過て表あり。逃れがこの
狩場の吹雪。空もかきし地を走る。鷹お責られ。のなこらううさう
安方。中を死ひまする。此苦むと。たどけてなべや則友どのと。いふ色も中
かどうふありて。悪獸化鳥の形もよへど。雲や烟の立ちして。亡者の姿
へ消失あり。則友の夢の醒るをひをば。かど身の袖をとりおさめ。悲嘆
の涙おむせける。やうく心をどりまわし。極重悪人無他方便唯称名字
必生我界と説ふべ。たれひ紅蓮火紅蓮ありとも。名号の智火ふひ
解ねべ。焦熱大焦熱かりとも。法水お滴ねべ。殊更彼を世ふ
たぐひあま忠臣されべ。殺生の罪ありて。一度苦をうくるとも。いづこ

仏の憐れさうんやとて。鉦うちあじ念仏數遍こあへて。去るく回向
い日の室堂小宿して。翌日葉お下り。つひ小陸奥小赴きたり

狹布里 第六條

夫はさそあき又奥州外が濱に残り。安方が妻錦木に子千代童
ろり小只あり。明暮淋淋打。夫の飯團をゆゆやめさや。待侘
つとも。ほひ小二年とらひ。飲来る影もよへど。一言の音信ふふひ
且。ほく業。つらく。さめぐ小ぢひ。つうの間と忘しが。涙の
かりひまもあ。素人里とされて濱辺小をき住家され。誰かひらう
者もあ。只耳小あり。いのとを洗ふ波の音。松小らう。濱風
寝醒お雁の色。夜とまらう。浦千も。つらう。涙の種。さう
うらふ貧さがあ。ひさく。夫お別て。さう。しまあり。ひもあひ



善知安方

七

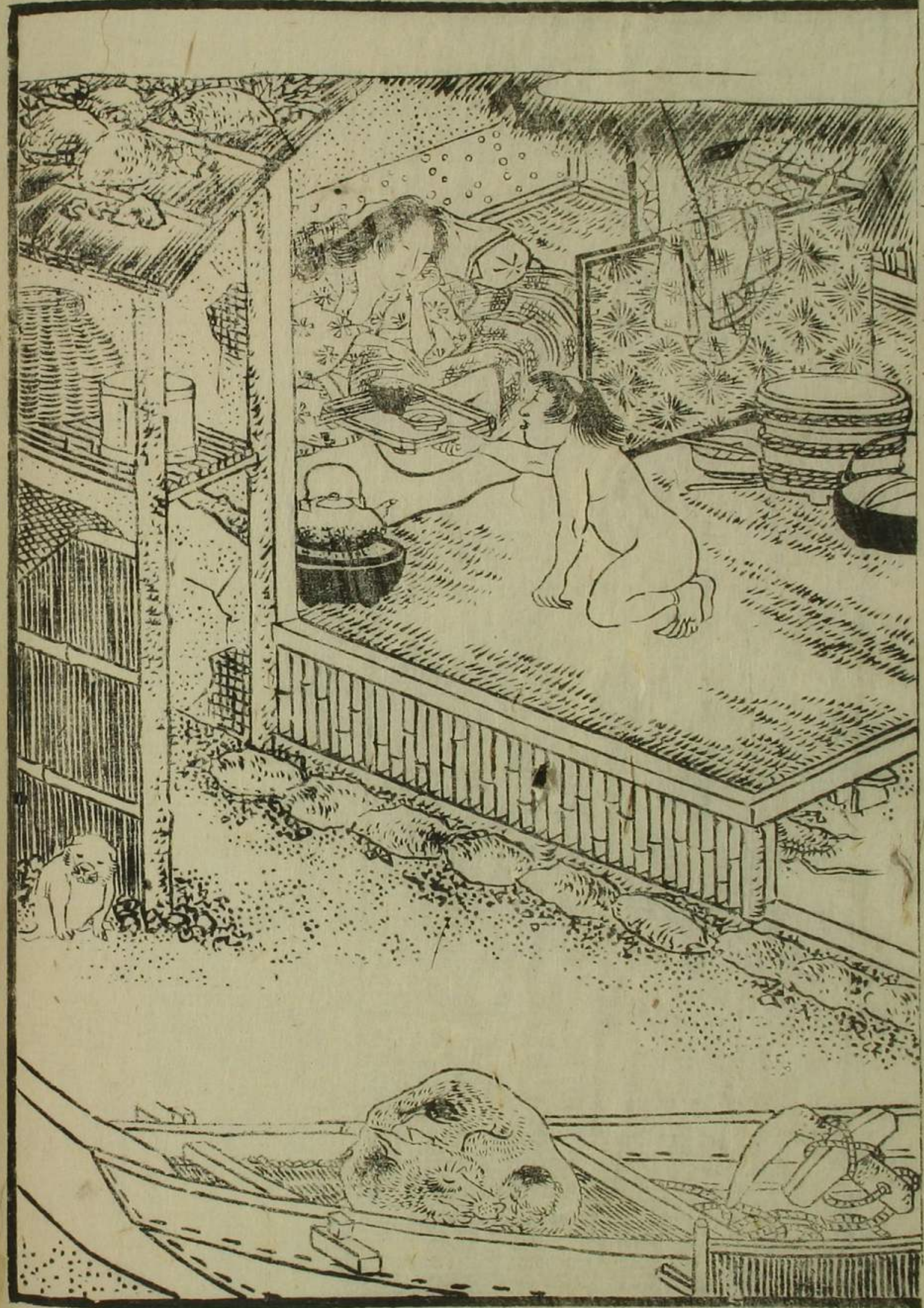


善知安方
殺生の
むくふふ
いんて
化鳥
悪獣
せりる

善知安方

是の日の糧も尽朝夕の烟もくぐりて藻塩草あつて敷りのともく
茶より外へ喰つさめのもろくれば母の細布を織て狭布の里おとび子
薦と編て十符里おひさた。終小親子露命をつなごて又夢と見る間
二年をこね時しも春のころわひらじが夏このめかさありて。おらひ乃
つめれるあや。錦木偶病臥かのももまご枕もわがて。苦くワグひぬ
け時千代まゝ終小十一才ありける。さるよりの武士の子さてかゝる辺鄙
小生也とよまへ似と。容きすつはして心ぐうう。殊更孝心深さ者あり
母の病苦と悲。昏夜枕のそとらとこるれぞして。看病しける。少の雑具
衣類もろく代うと。今の薬とりもむべき價もろくれば。母のまじし。眠れる
間ぬ濱おひきて浦人お手を合。涙と流しておりの奥をむ。それを代はして
薬とりあり。又の御みおひて。往來の旅人の袖おそり。一錢二錢のほと

うけ。これとためて母の好む食物をそのへいまで餘寒つよれ節ある。おのれ
一重の襪縷をもろくおつゆを赤裸おて連日りの喰ねりもめり。夜も枕とつゆ
眠らざ。折く母の枕辺おらうとどとありて。目をやとむるのともあり。そのひま
ふの濱辺おひて垢離とそり。岩城山権現を拜と。おのれが命おかくて母の状
氣を祈りたり。その千辛万苦をかりろく。誠是例まれある孝子なり。
さて一日錦木おひらげある頭とわけ。瘦かきりする手をのべて。十代童が額髪
うさまでつ。涙をこしする用りをも見て。胸さるるありあるを堪忍してひらる。
そらの親容もまきよふて。年お似と心うう。人お猪と小見まれも。か
まそかさるる火おひて。牙を苦くけ。果報つとまれ生とぞや。母が命も
おやつたけし。ひあく夏のおどとて。遠藤屏風とらうろおやしく腰と
たて。釣仏壇のうらより。香の煙おふとわりする。位牌と二つさらして。千代童が



わりの糸細布とさうして 椽まれの柱小うとつり。千代童とらう小ひり
 提来。きりりのとこぎと赤とらとほ。これも細布で高手小手小
 らしむの。まづは奴と苦しめて被ぐ心さうとらうん。んふうまづん
 わり不散ひする鷲の羽とさうして。流まらる酒小ひり。千代童が
 総糸わらうて前。竹藪小縛つ。錦木小むひてつひらる。汝んよかく
 憂同と見まほじとさひて。詞とそそか笑入と。さうさあわくはう筒。し
 日もろや暮方とつひ。此のこころひとさうして。住家ある誰かさう
 事もほし。殺んも活さん。我心の候あり。汝が夫善知次の四年
 以前出て飯らがるよし。おりの小貧苦おせまうて。汝等と捨お死首
 縊り身と投て死し。る不疑あり。たんと唐天竺と尋。とも。此世小
 かいでのらへふらひ。夫死して後夫不ま。ゆらひの。あひまう。いざ

我心小ま。さうま。返答せよとつひ。錦木はと
 ころころとおど。穢じやい。まら。と。夫死し。る少もの。女さりの両
 夫不ま。この道の人や。一令の惜ま。とて女の。と破る。べさう。無益の詞
 と費し。ゆらとつひて。且悲。且怒。さうさう。の。武士の妻と。詞と
 一ひ。さう。千代童の竹藪の裏小。ら。れ。の。ま。の。蚊酒
 氣と暮て。総糸小。集る。百。千。の。針と。刺。蚊
 よりも。瘦。る。身。う。ち。なり。ま。ら。小。腫。り。て。苦。さ。小。堪。え。ん。ば。色。さ。の。が
 て。ま。れ。さ。け。び。蚊。と。お。り。んと。さ。の。せ。れ。べ。ら。ら。れ。る。細。布。咽。と。さ。り。て
 息。つ。ら。ら。い。と。さ。ま。ま。や。も。あ。り。倒。て。い。ま。ま。起。る。叫。び。の。さ。苦。し。や
 堪。え。ら。ず。と。七。轉。八。倒。苦。痛。の。体。が。や。い。令。も。短。夜。の。夜。半。と。ら
 くと。更。不。たり。老。熊。これ。と。顔。て。わ。く。と。笑。ひ。童。よ。苦。し。ま。う。さ。う。さ。の。ん。

一、所小死とありて。さきより武士の妻子どもいさだした名と残さずと
 魂をまていひたれば。錦木はあな悲しく。そまことさうり見格のうへ
 父母もいさぐ今と惜むべき。親子手お手ををぬらして死出三途と伴ん
 つふ老熊とてまみびく心ありはあぐく苦痛とまをまとも。うりく殺
 せしふ。千代童が泣きまはるふいふうりてかとうされど。あうりふつれ
 蚊の音いそとまをまてくきさへり。おりの小唐土の廿四孝親小作りて蚊
 かくられさるおも。さうりふまさうり孝子あり。老熊呵くと打笑はさく小死
 とまをまて我療治ふて今と救おきわれれば。殺さるも恨あはじ。医師の目物
 のうらふ似つるね。殺も活も茶匙一本。毒茶の用意もあるとさうり
 まぐ殺んてかまら心はそさうり。只みと最愛して玉椿の八千代を
 連もつんとこととらふま。今あり幸目とやま。得心せま。つふ死つ

錦木と引立梯とまをまてそのよふくじつけ。蚊やりのまをまて。出て。
 秋の青葉と打く梯の下さうりつけて。團扇と以てめまき。うていふ
 責おせりける小。黒烟錦木が目口鼻かいら。息のまりむせつうりてまをま
 出ど手足と動し。牙とりてて苦む形勢。それや捺落の罪人が焦熱大
 焦熱の鉄火の裏おちらうりて。牙とやうふ異ま。不便とつうも愚ま。うり
 千代童はけけとまをま。おのが苦痛の打高母の苦と推量のうと叫びて蚊
 柱のうら小倒し伏。錦木はこれまでとやまひらん。自言とくひま。うり流
 う紅の紅葉おあけ。秋の霜消てさうり成ふり。老熊は此体とまのハて
 うさめた薬と刻む危丁とまをま。いまゆめの布ときりまて介抱するふ。や
 うとこれとま。大ふ力とま。切も膽氣列。さかめうる。日末のとひとま
 うや。ま。り。て。め。う。花と散せ。残ま。か。う。う。角とま。は。う。う。牛



医老 熊
 小一
 木を
 慈
 心ふ
 蚊
 千代童
 蚊責
 虫

善知卷之三



善知卷之三

殺し。技とためて木と枯し。ふる異あふど。さのめれと。こもるびうぬ。一六活あくも
我心の障あり。死せしむ。千代童わいのふまりしと。庭ふあり。さうら
えれば。い。息絶く死し。うらうら。無慙や。千代童の。總身小集
数方の蚊が。血と吸。熱く。枸杞の實の。女ありて。死得。江東小
住。い。蚊母鳥の嘔吐と散。塞北小生。い。蚊母樹と倒。さうら
たり。老熊。此時酒の醉全く醒。げ。がねら。と殺せ。う。さ。南所の
住ひ。り。び。おのめけぬ。間小逃。さ。や。心と。さ。わ。若の。ま。りの。ま。度と
さ。の。折。も。夜細。小。赴。漁夫の。何某。先。様。り。垣の外。小。立。様子。み。見
さ。けて。内。小。り。人殺の。老熊。か。め。さ。り。郡司の前。小。わ。く。の。賞金。小。官
んと。叫。く。死。く。お。と。老熊。足。の。け。て。撲地。踢。仆。起。上。る。所。の。り。の。小
薬研の輪。と。り。て。頂。と。真。二。つ。小。打破。け。み。も。忽。め。さ。や。こ。さ。り。び。て。死。し

畢ぬ。さ。く。老熊。い。く。さ。も。あ。く。逃。失。たり

十符里 第七條

美ふ又鷺沼太郎則友。さ。り。り。た。乃。と。さ。さ。陸奥。小。下。り。や。津輕の地。小。つ。た
外が濱と。ぬ。ぬ。ぐ。や。と。此。彼。と。立。め。ぐ。り。け。る。ふ。武。辺。へ。總。て。荒。蕪。を。さ。り。限。も
あ。れ。ぬ。沙。原。さ。り。一。根。の。草。木。と。ふ。生。い。で。ど。素。人。家。一。軒。も。は。な。く。人。の。さ。さ。さ
ま。れ。ば。る。の。業。内。と。さ。り。さ。も。の。い。は。ど。殊。更。極。陰。の。地。さ。り。ゆ。ま。の。や。海。氣。朦
朧。さ。り。霧。の。こ。め。さ。り。さ。如。く。東。西。と。辨。ぜ。ざ。れ。ば。さ。小。の。た。り。ぐ。さ。ひ。ぬ。け。地。の
者。さ。り。さ。ふ。迷。ふ。ふ。や。所。さ。り。目。道。の。柱。の。さ。り。と。え。つ。つ。て。さ。ひ。こ。れ。と。便
小。た。さ。り。け。さ。り。足。と。沙。小。浜。踏。込。く。ゆ。け。の。さ。り。の。さ。り。引。り。さ。り。さ。り。様。少。さ
る。さ。り。さ。り。ど。益。難。義。さ。り。折。し。も。北。風。烈。さ。り。吹。起。く。天。地。さ。り。沙。と
ま。さ。り。の。け。暗。く。冥。く。さ。り。闇。穴。道。と。ゆ。ぐ。さ。り。吹。倒。さ。る。べ。た。さ。り



外
が
ま
ゆ
こ
う
さ
ま
の
林



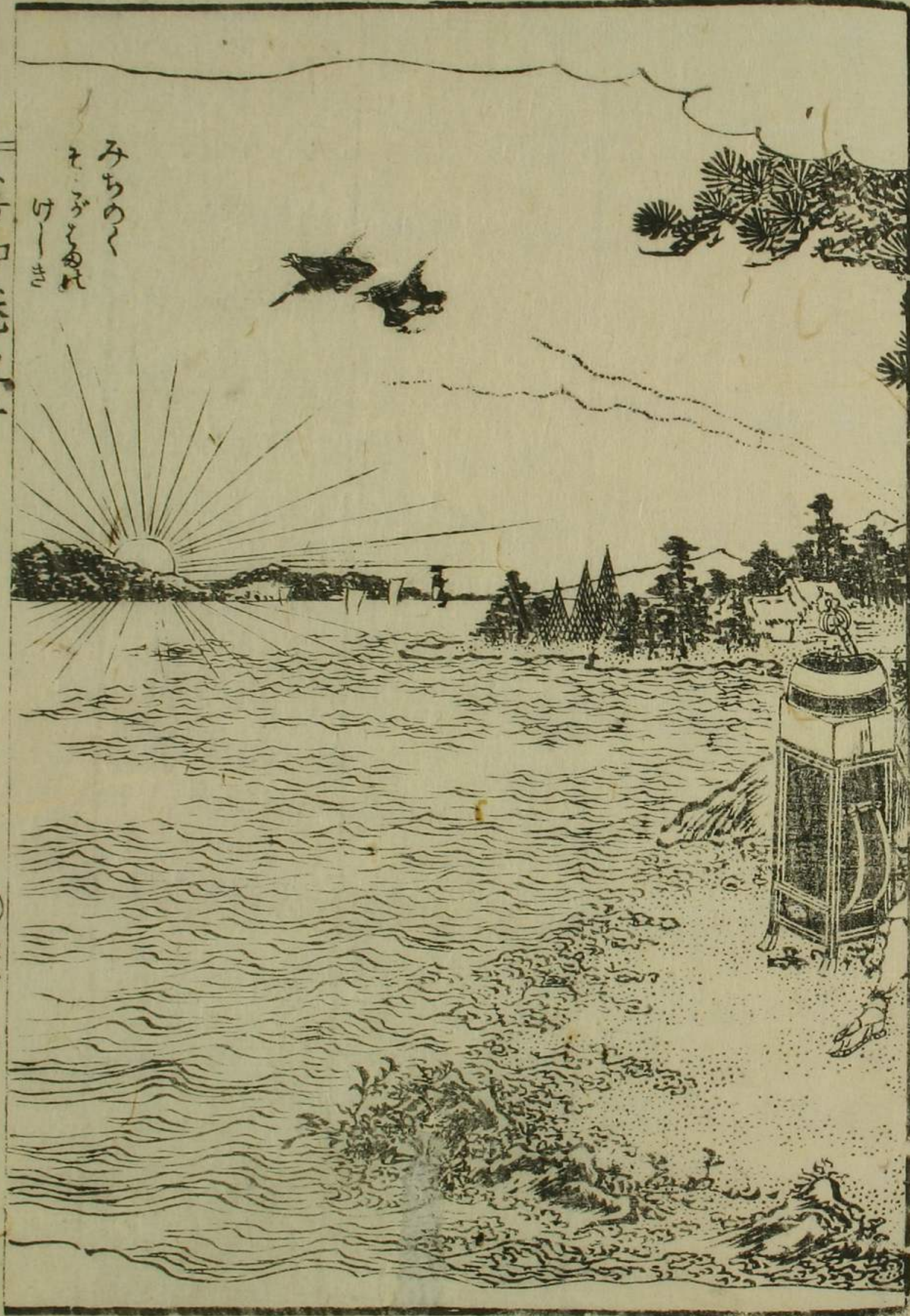
鷲
沼
太
郎
い
り
と
錦
木
ふ
の
ひ
幽
霊
と
安
方
か
こ
と
を
う
ら
り
と
え
い
く

へどぐり〜。おん刃の錦木（錦木）のあつむや。我（我）の兄（兄）の太郎則友（則友）あつむとつふ
 あど（あど）の女（女）も打（打）敷（敷）たる体（体）めて。何（何）とのまふぞ。兄（兄）うへ（うへ）をいひさるゝや。あひ
 うけざるまふとつひつ走り（走り）より。互（互）ふ手（手）とさうらふと。その涙（涙）ふ
 られらるゝが。錦木（錦木）やうく涙（涙）ぬぐふ。則友（則友）とさうらふて内（内）のつらぬ。則友（則友）の
 泣（泣）りる物語（物語）のわれは。つらき語り語り。諫死（諫死）の子細（子細）う（う）り。あど
 立山（立山）あつむ善知（善知）の亡霊（亡霊）あひ（あひ）一変（一変）と始（始）めて。諫死（諫死）の子細（子細）う（う）り。あど
 この袖（袖）とあひ（あひ）はきまへ。錦木（錦木）これとさうらひめて。おれ（おれ）の夢（夢）うやめとほしや。四手（四手）の
 田長（田長）のあひ人（あひ人）いふりくあつむあひひらうとつひて。袖（袖）とさうらふ。あど
 のせ。あつむあつむけびて倒（倒）伏（伏）。則友（則友）あつむ。今抱（今抱）とるか。あつむ〜人（人）さうらふま。
 神（神）ふ血（血）か（か）の跡（跡）と残（残）さ〜一首（一首）の歌（歌）とよ〜さうらふつ
 陸奥（陸奥）の外（外）が濱（濱）さうらふと鳥（鳥）さうらひられさるゝ善知（善知）安方（安方）

錦木（錦木）の哥（哥）と二三遍（二三遍）う（う）〜讀（讀）とらうてつひらるゝの思（思）はこれ前年（前年）
 安方（安方）どの古郷（古郷）と出（出）〜旅衣（旅衣）の片袖（片袖）さう木曾（木曾）の森衣（森衣）織糸（織糸）の同遠（同遠）あつむ
 少（少）もんつらむ。凡（凡）刃（刃）の悲（悲）〜さ。あつむあつむん〜あつむさ。十符（十符）の菅薦（菅薦）
 三竹（三竹）村（村）小寝（小寝）〜四年（四年）の春秋（春秋）とさうらふ〜久（久）も。あつむあつむ〜あつむさ。あつむさ
 世（世）ふいあつむ〜と推量（推量）〜あつむあつむ。日（日）ごろあつむ〜雨風（雨風）あつむ破（破）残（残）は蓑（蓑）さ
 主（主）のあつむとさあつむあつむ。香花（香花）とたひくも。せめてあつむ殺生（殺生）の罪科（罪科）と滅（滅）〜
 悪趣（悪趣）と脱（脱）さるゝ〜とあつむあつむ。兄（兄）うへ（うへ）の修行（修行）の弟（弟）とさうらひむひで
 幸（幸）あつむ亡霊（亡霊）とあつむあつむ。け〜も亡魂（亡魂）の来（来）ま〜日（日）あつむ。あつむ通夜（通夜）
 してんさうらひの称名（称名）とたひめてん。兄（兄）うへ（うへ）の旅（旅）のつらぬもあつむあつむ。あつむ心（心）
 とあつむあつむ。別（別）小物（小物）結（結）〜とあつむあつむ。あつむあつむ。あつむあつむ。あつむあつむ。
 の〜とつひて。蓑（蓑）蔭（蔭）屏風（屏風）と打（打）かえ〜。則友（則友）さうらふと。あつむあつむ。あつむあつむ。
 打卧（打卧）難（難）一（一）听（听）の

つゝふおわらざる熟睡けり。細引の色の耳近くすゝふ驚死目瓜醒
 るのくろく瓜足ればつめたる石原小野てよるゝ家も人もなく。前へ測り
 たる大海をて後へ森くも松原あり夢とぞく。よくの夏へうつふおぼえ
 めれば。扱へ亡人の霊出てありけり。と悲しく不堪さうなり。日々さう
 のなりぬれば。浦人おつてさうつんとわらふ瓜歩。いめくお塩風かゆれ
 て木ありともひさる古松のりふ。一塊の新塚あり卒聲婆お記せし文字と
 足れへ善知次妻之靈天徳元年丁巳七月八日死とぞさつけり。枕飯
 とぞさう折敷の上ふ。お片袖のせてのりけり。扱へ人の霊へさうのり
 たりや夫瓜慕一念け世ふさまりて。権お姿とのけ。我おさうへて詞と
 ころけり。七月八日死と記しぬれば。昨夜一七日おめられぬ夜あり
 不便の者の身のことやと打嘆。笈佛の扉とひりぬをさうて鉦打ぬは

南無幽霊出離生死頓證菩提と唱へ念佛まじりて居る。ふ小一個の
 童開伽の水と汲野辺の花と折来りて。け塚小手向。とぞ悲。さうなり。
 則友は体とそて安方が物語ふ。千代童さう一子ありとのひり。け童小疑
 る。とぞひて誦とけ。そんならへ若千代童おめどやとらふ童つづる。
 いらふも某の千代童さうみ者あり。さうのゆゑ修行者いさうお人おそ。
 某がら瓜瓜知みゆやとらふゆゑ。果してなげむとと近くし。某は汝が母
 錦木が兄。鷲沼太郎則友さうみ者あり。ゆゑありてや。一所不住の
 糸とやめとらふ。扱へかみぐ。母人のお宿おすつ。伯父のこのふておい
 ゆ。おひりけり。對面さうとて。互ふ又涙おさうられぬ。さう則友汝が
 糸まじり子細とらふ。千代童さう母童病とけけし。老態お
 責られ。舌とくひて死し。さうまで。残さうと語り。某も蚊責おひて氣絶



みちのく
そらとあはれ
けしき

言和巻上



うさぎのうさぎの身の
片袖鳥と化して
あまのこも
うさぎも霊魂
鳥と化して
さびいでるり
空のわさ
うさぎ鳥と
か鳥といふ
これか

言和巻上

老熊死しつゝとて捨おき。逃去する跡めて命づよくして
 蘓生浦人の情小管もく。母の死骸とて所小埋ぬとて。則友の安方が
 諫死の始末。立山とてその霊小あひする。夏。および昨夜錦木が魂小あひ
 する夏と語り。かの片袖と見えれば。千代童とてつゝく。んく某々
 よく。父母小縁薄き者ありとて。悲歎小ひせびく。倒たり。かる折しも
 一陳の冷風颯こ吹おろし。かの袖と虚空小巻のけが。か心くろく鳥と化して。
 塚の上と死められ。頭て塚鳴動して二つ小く。うちより。同様なる鳥飛
 出二つの鳥翅とつゝねてちぎく。悲鳴。枕飯とつゝみ。つゝ小二羽
 打連く。沖のつゝと飛去り。善知鳥。安瀉鳥とく。比外。墳小住。今小其
 名小残せし。乃此鳥ありとて。則友とて。傳。安唐土の韓。朋夫婦
 の精魂。鶯鶯と化して塚の樹小住。とて。安方夫婦が愛情。これ小と

感涙袖とまぢり。初千代童。其初。つゝも。
 武士の子と生じ。母の仇と報そやのふき。伯父のふか。とて。つゝも。
 則友其志と感。安方が。見ふあり。や。つゝも。つゝも。つゝも。
 敵の行方とね。本懐と。つゝも。つゝも。つゝも。
 相らも。立去り。比後。かの鳥。天曇。日雨。降。夜。と。一。色。つゝも。
 火。所。燃。て。教。万。の。鳥。の。色。と。は。し。う。と。つゝも。つゝも。
 その色。涙と。催。さ。と。つゝも。は。後。浦人。これと。憐。かの塚。小。つゝも。
 石と。建。錦。塚。と。名。づ。けて。今。小。残。し。り。又。かれ。つゝも。つゝも。
 稱。今。小。土。人。の。語。種。と。つゝも。か。れ。が。忠。貞。孝。心。と。賞。して。口。碑。と。つゝも。
 けれと。つゝも。

○和漢三才圖會云素規濱天津輕海邊の總名あり。青森の近
 所の濱小村あり安瀉とあつて云く
 ○因云善濃路小善知坂あり武藏川越領小善知坂今鳥頭
 是等も安方が所縁の地也

善知傳卷之二終

